

大学

企画課管理用 教 一 A 一 2

推進主体	学生センター教務課
責任者	学生センター所長

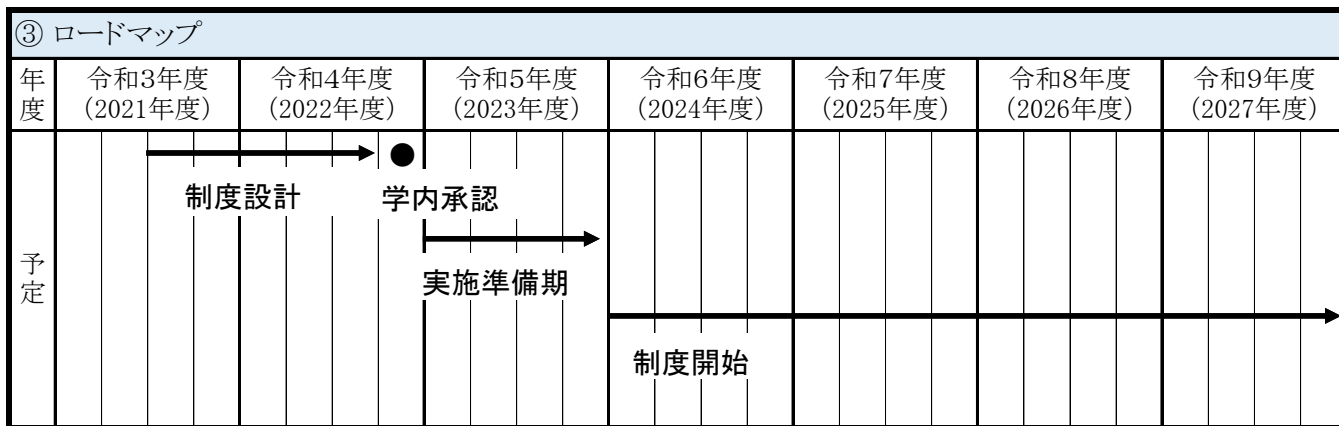
分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	一	A	②複数の専門性に基づく知識と普遍的なスキル・リテラシー等を身に付けるための副専攻プログラムの設置の検討(「データサイエンス・プログラム」の設置等)	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

学生が学部学科の枠を超えて、専攻分野を問わず、様々な知識を体系的に学ぶことで多面的な視野を身に付けることを可能とする副専攻制度を設置する。制度設計にあたっては、専攻分野の補強、応用分野の習得、新たな分野への挑戦等、さまざまな活用方法を視野に入れて検討する。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

制度開始から逆算し、カリキュラム設定や修了判定準備等の実施準備期間に1年程度要することから、令和6年度からの制度開始を目標に、令和4年度中に制度設計を完了させる。制度設計にあたっては、長期的な視野に基づき、学生のニーズに応えられる専攻を設置するべく、設置すべき専攻分野の選別の段階から入念な設計に取り組むこととする。



④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	令和3年度に設置された副専攻制度設計委員会において、設置の可否および設置すべき専攻分野について検討し、学内の合意形成を行う。	令和3年11月より副専攻制度設計委員会が開催され、令和4年3月開催の各学部教授会にて副専攻制度の設置が承認された。当初の想定より1年早く学内の承認が得られたことを受け、令和4年度から副専攻制度運営のための準備が進められ、令和5年度から制度を開始することとなった。なお、設置する専攻は、「データサイエンス」、「日本語教師養成プログラム」、「ジェンダー・スタディーズ」の3専攻となる。今後の課題は、具体的な手続方法の策定や、内外に向けた広報の準備となる。 ★進捗段階:「実施展開」
令和5年度 (2023年度)	令和5年度からの制度開始に伴い、実施部局と連携し円滑な制度運用に取り組む。並行して、プログラムの履修者情報の分析や、広報の在り方等、制度の継続に向けた改善事項の有無を精査する。	1年前倒しでの制度開始のため、HPや大学案内等の事前の広報は十分ではなかったが、ガイダンスにて履修可能な新入生を対象に周知し、対象科目の履修者数がそれぞれ、「データサイエンス」2,009名、「日本語教師養成プログラム」116名、「ジェンダー・スタディーズ」250名となった。ただし、「データサイエンス」、「ジェンダー・スタディーズ」については、対象科目が各学科の選択必修科目に含まれるため、最終的に副専攻プログラムを申請のうえ、修了する学生は減少することが想定される。 ★進捗段階:「展開完了」
令和6年度 (2024年度)	令和8年度の修了者送り出しによって、到達目標達成となるため、履修状況を分析のうえ、プログラムの適正な規模を精査し、広報の在り方やガイダンス実施方法を検討していく。	HPや大学案内による広報に加え、新入生へのガイダンスにて制度の周知を行い、対象科目の履修者数がそれぞれ、「データサイエンス」2,527名、「日本語教師養成プログラム」195名、「ジェンダー・スタディーズ」450名となった。ただし、いずれの科目も対象科目が各学科の選択必修科目に含まれるため、最終的に副専攻プログラムを申請のうえ、令和8年度に修了する学生は減少することが想定される。また、登録日本語教員制度に対応するため、日本語教師養成プログラムのカリキュラムを一部見直した。 ★進捗段階:「展開完了」
令和7年度 (2025年度)	令和8年度の修了者送り出しによって、到達目標達成となるため、引き続き履修状況を分析のうえ、プログラムの適正な規模を精査していく。	